

(博士後期課程) 化学・環境・生命工学専攻【環境工学コース】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

地域環境技術・自然共生技術・社会環境基盤技術など広範な要素技術を体系的に理解しながら、実験技術・環境システム設計技術を駆使し、持続可能な発展の実現に向けた諸課題の解決を主導できる高度専門技術者・研究者の育成を行う。また、これらの活動に対して、情報の受発信を円滑に行い、リーダーシップをとりながら課題発見から解決に至る過程に携わることができる能力を高めていく。

<求める人物像>

- ・ 専攻および環境工学コースが掲げる教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人
- ・ 環境工学についての技術基盤をもち、他分野との融合的な取組にも積極的に関わる意欲をもった人
- ・ 自らの考えや研究の意義づけ、状況把握に対して化学の言葉を駆使しながら的確に言語表現ができる人

入学前に学修しておくことが期待される内容

博士後期課程では、博士前期課程以上に主体的かつ積極的に研究課題に取組み、研究を遂行するとともに、当該する学術分野において研究成果を国際的に発信できる能力が求められる。そのためには、当該分野における高い実験（研究）遂行能力を身に付け、最新の分析技術とデータ解析手法を学んでおくことが必要である。また、学術情報を収集し理解するための科学英語読解能力、当該分野の研究者とハイレベルの意見交換できる英会話能力、研究成果を世界に向けて発信するための英語学術論文作成能力、などの実践的な英語力が必要である。さらに、博士前期課程と同様に、工学倫理（研究者倫理）を修得し、より高度な情報リテラシーを身に付けておくことが望ましい。

一般入試

学科試験は課さず、面接試問と書類（調査書、成績証明書）審査の結果で総合的に評価する。面接試問では、博士前期課程での研究内容と博士後期課程で行う予定の研究内容について、プレゼンテーション（20分程度）を課す。入学前に学修しておくことが期待される内容は、上記の通り。

外国人留学生入試

学科試験は課さず、面接試問と書類（成績証明書、推薦書他）審査の結果で総合的に評価する。面接試問では、博士前期課程での研究内容と博士後期課程で行う予定の研究内容について、プレゼンテーション（20分程度、日本語または英語）を課す。

